

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>【第1学年】</p> <p>○文字（ひらがな、漢字、かたかな）を正しく書けるようになってきている。</p> <p>○簡単な文章が書けるようになってきている。</p> <p>○たし算やひき算が正しく速くできるようになってきている。</p> <p>○チャイム着席や授業の準備を意識してできるようになってきている。</p> <p>△言葉遣いに指導を要する児童がいる。</p> <p>△きまりの指導を要する児童が少し見られる。</p> <p>△文字に間違いが少し見られ子がいる。自分で考えて書くことにまだ戸惑いがある。</p>	<p>●文字は引き続き、宿題に出したり、小テストをしたりして練習していく。</p> <p>●絵日記を宿題に出したり、授業で自分の考えを書く場を作ったりすることで、慣れさせていく。</p> <p>▼よくない言葉遣いがあったら、その場で注意をして正す。よい言葉遣いを褒めて、教員も手本を見せていく。</p> <p>▼学期ごとにひがとの決まりを確認し、クラスで共通理解をする。なぜ、きまりがあるのか理解させていく。</p> <p>▼文字の間違いや、自分の考えが書けない子は、個別指導し、アドバイスをして定着させていく。</p>
<p>【第2学年】</p> <p>○物語を読むときに、登場人物の行動から心情を想像することができるようになった。</p> <p>○これまでの学習を活かして、新しい問題に挑戦し、正しい答えを導くことができるようになった。</p> <p>○自分の考えと友達のことを比較して、考えることができるようになった。</p> <p>△文章を書くときに、促音・拗音、「へ・に・を・は」を間違えてしまう児童が多い。</p> <p>△引き算の筆算の計算に時間がかかる児童が多い。</p>	<p>●登場人物の行動から心情を想像する力が育ってきたため、叙述を根拠として自分の考えを説明する力を付けられるようにする。</p> <p>●既習内容を活かして取り組む応用的な問題を計画的に設定する。</p> <p>●考えを比較する際に観点を明確にし、理由を付けて説明する力の向上を図る。</p> <p>▼書いた文章の見直しを習慣付けるとともに、日々の学習での音読を繰り返す。</p> <p>▼繰り返り下がりの意味理解を図り、手順の定着を目指すとともに、個に応じた反復練習をパワーアップタイムやデジタルドリルで行い、基礎的な計算能力の定着を図る。</p>
<p>【第3学年】</p> <p>○計算問題などの手順を理解し、繰り返し取り組むことにより確実に進められるようになってきた。</p> <p>○タブレット端末を操作する力が向上し、授業での意見交換等で活用できるようになってきた。</p> <p>▽漢字の定着を図るための紙ドリルやデジタルドリルを活用したが、漢字の定着率が不十分であ</p>	<p>●話を聞くことはできているが、内容の理解については、今後も継続して指導する。</p> <p>●タブレット端末の活用は意見交換にとっても効果的なため、授業では引き続きタブレット端末を活用する機会を多く設定する。</p> <p>▼漢字の定着率が十分ではないため、一回の練習を少ない文字数に限定し、少しずつ繰り返し練習を</p>

<p>った。</p> <p>▽算数では、思考力を必要とする文章題の内容理解および問題に解答する力が不十分だった。</p>	<p>行い、正しく書き覚えられるようにする。日常の中で使えるようにノートやテストに既習の漢字を使うように指導する。</p> <p>▼言葉の意味の理解が曖昧なことが多く、学習内容を正確にとらえられないので、言葉をかめめることを指導し、確実に理解できるようにする。</p>
<p>【第4学年】</p> <p>○文章から情景や場面を想像したり、筆者の考えを読み取ったりする力が付き、考えを友達と交流することができた。</p> <p>○友達と考えを交流し、考えを広げたり、自分の考えと友達の考えの相違点に気付いたりすることができた。</p> <p>○数直線や図を用いて説明、立式する活動を多く取り入れたことで、問題を自力解決できる児童が増えた。</p> <p>○家庭学習プリントに継続的に取り組むことによって、四則計算の技能の定着が見られた児童が多い。</p> <p>▽児童によって、漢字の定着率の差が大きい。</p> <p>▽算数では、文章読解に課題が見られる児童が多い。</p>	<p>●読書活動の推進を継続し、文章の読解力をさらに向上させる。</p> <p>●友達との交流活動を多く取り入れ、さらに考えを広げ、深められるようにする。</p> <p>●家庭学習の習慣が付いている児童が多いため、家庭学習による、さらなる基礎・基本、技能の定着を目指す。</p> <p>▼デジタルドリルでの漢字の反復練習、紙でのテストを併用し、漢字の定着率の底上げを図る。</p> <p>▼算数で題意の理解ができるように、問題場面を自力で絵や図に表せるようにする。</p>
<p>【第5学年】</p> <p>○デジタルドリルやカルテの活用から、児童一人ひとりの学力の向上が見られた。</p> <p>○ICT機器やデジタル教材の効果的な活用により、意欲や見通しをもって学習に臨める児童が増えた。</p> <p>○説明文において、「つまり」「このことから」といった接続語に着目して読むことで、筆者の主張を読み取る力が高まった。</p> <p>▽言語理解や語彙力の個人差が大きく、文章を正確に読むことができない児童が一定数いる。</p> <p>○話し合い活動の場の設定や、話し方・聴き方の振り返りの時間の確保により、相手意識をもって話したり聴いたりできるようになってきた。</p>	<p>●パワーアップタイム等を活用し、一人ひとりに合った個別の学習時間を確保していく。</p> <p>●引き続き、児童の学習支援としてデジタル教材を活用していく。</p> <p>●接続語だけでなく、段落構成やキーワードにも着目させることで、文章全体の構造を捉える力をさらに伸ばしていく。</p> <p>▼デジタルドリルを活用し、前学年の学習内容の習熟に取り組む。</p> <p>●引き続き、話し合い活動の場を意図的に設け、定期的に振り返りの場を設ける。</p>

【第6学年】

- ICT機器の活用により、考えを表す方法を自ら選択し、最適な表現方法を考えることができるようになった。
- 紙ドリルやデジタルドリルの活用から、児童一人ひとりの基礎的な学力の向上が見られた。
- グループワークを繰り返すことにより、目標に対して協力して取り組む姿勢が多く見られた。
- 書く活動では、構成を考えて書くことを繰り返し取り組むことにより、書くことに課題がある児童も書くことができるようになった。
- ▽全体の基礎的な学力を向上の大きな改善は見られなかった。
- ▽言語理解や読解力の個人差が大きく、文章を正確に読むことに課題がある児童が多数おり、国語・算数ともに区の学力調査平均を大きく下回る結果となった。

- 教科に関係なくICT機器の効果的な活用を継続して行い、鉛筆で書くことが苦手な児童も取り組めるように表現方法の選択肢を多く用意する。
- デジタル教材のみで偏った補習になってしまうことがある。紙ドリルの活用も同時に進める。
- 学習意欲や学習能力が低い児童も、グループで役割を与え、全員が目標に向かうようにする。
- 構成を考えることが苦手な児童には、手本を見せ、何度も写すことにより、見通しをもつことや書くことへの抵抗感を和らげるようにする。
- 一人ひとりの学力を学びポケット内のカルテで確認し、個に応じた効果的な指導をする。
- 言語理解や読解力の補習ができるように、保護者と連携を密に図り、学習では言語理解や読解力の向上を図る問題に取り組ませる。

【若草学級】

- 繰り返し、個々の状況に合わせた学習を進めた結果、それぞれのめあてにしている学習内容の習得が見られた。
- 買い物学習などの生活場面を想定して学習したことで、生活に生かせる力が身に付いた。
- コミュニケーションが苦手な児童に気持ちの表現のため選択肢を用意して表現させたり、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れたりしたことで、コミュニケーションがスムーズに取れる場面が増えた。
- ▽気持ちのコントロールに課題がある児童がいる。落ち着いて学習に取り組めるように促す必要がある。

- 個々の児童の学習の基礎基本の定着の度合いをよく見取り、繰り返し定着を図っていく。また、学習グループの編成を工夫し、学習効率が上がるようにしていく。
- 生活場面を想定し、児童一人ひとりが必要とする学習内容を習得できるようにする。
- 気持ちを表現させたり、相手の気持ちを考えさせたりして、社会の中でより良い生活環境を作り出せるように働きかける。
- ▼気持ちのコントロールがうまくいったときに、褒めて自己肯定感を上げていくようにする。